GrowerFacts

KieftSeed™

ガイラルディア メサ・シリーズ

学名： *G. x grandiflora*
種子粒数の目安(クリーンシード)： 250-300/グラム

開花要因:
- メサ・シリーズは初年開花する宿根ガイラルディアです
- 日長反応について: メサ・シリーズは条件的長日開花植物なので 14 時間以上の長日条件でよく揃いより早く開花する

プラグ生産ステージ

培地
水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.8 から 6.2 の範囲とする。また初期の培地の養分は中庸(EC 値: 0.75mS/cm(1:2)以下)とする

播種
288 穴、あるいはそれよりも大きなサイズのプラグトレイを用いる。ヨーロッパで用いられている 264 穴のトレイの利用も可能。バーミキュライト等で覆土することを推奨している

ステージ 1 - 発芽には 4、5 日要する
地　温: 発芽時の地温は 20 から 23℃
光条件: 光はあったほうがよい
水　分: 培地の水分は、ステージ 1 の間は適度に湿潤(level 4)を保つ
湿　度: 幼根が展開するまでは相対湿度 95%以上を維持する

ステージ 2
地　温: 20 から 23℃
光条件: 最大で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能
水　分: 培地の水分を少し抑え、適度な湿潤から標準 (level 4 から level 3)に保ち、根が培地の中でしっかり張るよう促す
肥　料: **レート 1**(100ppm(N)以下、EC 値が 0.7ms/cm 以下)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3
地　温: 15 から 19℃
光条件: 最大で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能
水　分: 水やりの直前までは、培地の表面がやや茶色になるくらいまで乾いた適度な乾燥(level 2)状態にする。乾かしながら根の生長を促し、脇からの余計な新芽を抑えてやる。適度な乾燥と湿潤(level 2 から 4)を繰り返し続けるようにする
肥　料: **レート 2**(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2ms/cm)の肥料を与える。苗の動きが遅い場合は、硝酸態とアンモニア態の肥料を交互に与え、栄養生長を促す。培地の pH を 5.8 から 6.2 の範囲を、EC の値は 1.0-1.5mS/cm(2:1)を維持する

矮化剤: 通常はほとんど不要である。ステージ 3 においては、B-ナイン 2,500ppm(有効成分 85%の場合、1 リットルに 3 グラムの溶質を溶かす)を与えることが可能である。

北ヨーロッパなどでは B-ナイン 1,250ppm(有効成分 85%の場合、1 リットルに 1.5 グラムの溶質を融解)の高い希釈倍率の矮化剤が用いられるが、これも可能である

ステージ4
地　温: 15 から 18℃
光条件: 温度が調整されるのであれば、53,800 ルクス(5,000f.c.)まで可能
水　分: ステージ 3 と同じ
肥　料: ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ
13cm ポット: 1 本植え
15 から 18cm コンテナ: 1 本植え

※ 25cm ポット(コンテナ)には 3 本植えを推奨している。ただし春先の播種で、適度な温度条件の場合は 1 本植えも可能

培地(用土)
水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.5 から 6.2 を適正とし、初期の培地の養分は中庸(EC 値:0.75mS/cm)とする

温度(生育適温)
昼間温度：15 から 21℃、夜間温度：10 から 16℃
ガイラルディア・メサは、低い温度(たとえば、春先に霜の降りない程度のビニールハウス)でも生長するが、期間は長くなります

光条件
適正な生育温度で維持管理ができる場合は、照度をできるだけ高くする

日長時間との関係
メサは、長日開花の特性をもち、より早く揃って開花させるには 14 時間以上の日長が必要である。日長時間が 12 時間以下でも株は育つが、開花が 2、3 週間遅れ、開花のタイミングも揃いにくくなります

かん水
用土に湿り気のある状態を維持する。株が大きく育ってくると、急に水切れを起こすことがあるので注意する。かん水するときは、しっかりと水を与える

肥料
リン酸分が低くカリウムの高い硝酸態の肥料を**レート 3**(175-225ppm(N)、EC 値が 1.2-1.5mS/cm)の濃度で与える。pH は 5.8-6.2 の範囲を維持する。生長が鈍いようであれば、必要に応じてアンモニア態と硝酸態との肥料でバランスを調整する。EC 値を 1.5 から 2.0mS/cm に、また pH を 6.0 から 6.5 の範囲で維持する

定期的に多頻度で肥料を与える場合は、上記の範囲で EC 値と pH が維持されるのであれば、**レート 2**(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7 から 1.2mS/cm)とすることも可能

矮化剤(PGR)
低めの温度条件で生産が行われているのであれば、矮化剤は不要であろう。必要な場合は、5,000ppm(有効成分 85%の場合、1 リットルに 6 グラムの溶質を融解)の B ナインで、株の大きさを調整する効果がある

北ヨーロッパ仕様: 北(西)ヨーロッパなどで用いられる、2,500ppm(有効成分 85%の場合、1 リットルに 3 グラムの溶質を融解)の B ナインでも効果は見られる

ピンチ
不要である

スペーシング
隣どうしの葉が触れるようになったら適宜スペースをとる

平均的な生産期間

播種から移植まで: 5 から 6 週(288 穴)
移植から出荷(開花)まで: 11 から 14 週
播種から出荷(開花)まで: 16 から 20 週
※ 上記の播種から出荷(開花)まで凡そ 16-18 週という期間は、春の生産を基準にした目安であり、昼間温度が 15-21℃、夜間温度が 10-15℃、さらに自然な日長時間の下で生産されることを条件としている。また、温度が上がり日長が長くなれば生産期間は短くなり、逆に温度が下がり日長が短くなれば生産期間は長くなる

春から秋生産の作型: 2 月初旬から 7 月にかけて播種すると 5 月から 9 月の仕上り(開花)となる

病虫害について

害虫: ファンガスの幼虫やスリップスなどに注意する
病気: INSV や白斑病、ウドンコ病などが報告されている
その他の注意点: 稀ではあるが、メサ・イエローの苗にアルビノ(色素欠乏)が現れることがある。この苗はその後、生長しない。頻度としては、最も高い割合として 9%程度と考えられる

花壇定植や造園のついて

- **メサ・イエロー**は、特別な低温処理を施さなくてもその年に開花する一年生開花が可能な品種です。また、USDA(アメリカ農業省)の耐寒性の指標ではゾーン 5(マイナス 23-29℃)まで定植が可能です
- 降霜のおそれがなくなってから日あたりのよい場所に植え付けましょう
- 30 から 45cm の株間で、水はけのよい場所に定植しましょう
- **メサ・イエロー**は一度しっかりと根付くと、乾燥にとても強くなります
- 定植後の草丈は 40 から 45cm、株張長は直径 50 から 55cm になります

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。